

第2回 海田町上下水道事業経営審議会 議事録

日 時：令和7年10月3日（金） 9:55～11:00

場 所：海田町役場 3階会議室

1 開会・町長あいさつ・委員紹介

司会が開会を宣言した。

2 報告事項

事務局が水道料金の改定（素案）のパブリックコメントの実施結果を説明した。

3 議事

第1号議案 諮問事項 水道料金の改定について

事務局が水道料金改定（案）を説明し、次の質疑応答があった。

清水会長	前回までの審議会では25%の料金値上げというところまであったが、今回は具体的に各口径の使用水量で、どのくらい料金変動するか示している。質問や意見はないか。
委員	計算方法が難しい。資産維持費のところ、一般に内部留保資金は悪いと言われているが、大きな災害の時やお金があるときに、経営が大赤字では借入れ条件が悪くなったり、メインバンクの経営状態が悪い時もスムーズに借入れできない。なるべく現金はあったほうがいい。デフレ状況とか、利息が安い時とか銀行が借りてくれと言っている時には、いいと思うが、今の状況は何もかも値上げされて利息が高くなっている。減価償却費の枠を超えたらお金を取り崩すことになる。将来のことを考えたら、次の料金改定時の審議会での話になるのだろうが、せっかく制度として認められているのなら試算維持費3%はちゃんといただいて償却費は内部留保、老朽化した施設を新たな施設に変えたりすることに使ってもいいのではないかな。認められているものは、いただいたほうがいい。
清水会長	ある程度の資金、2億円が十分かということもあるが、物価が上がる中で内部留保資金が0円になる可能性はゼロではない。資産維持率は、調整弁のような役割で、状況に応じて必要かどうか検討する。
委員	表には出さないでも内々に把握しておいたほうがいいのではないかな。
事務局	今回の財政シミュレーションでは、物価上昇率や工事の内容を見込んで推計して収支が確保できている。5年ごとに料金を見直すので、次のときは、そ

れを見込んで、調整弁を活用しながら検討していきたい。

清水会長

料金改定率が20%を超えると、「水道もか。」ということが出てくる。バランスはどこかで見ないといけない。水道事業は独立採算で料金で費用を回収しないといけない。水道事業者は物価上昇と使用者の板挟みのところがある。

計算のプロセスは難しい。25%を基本に改定するが、基本料金は小口径に配慮して抑え気味で、大口径のところで料金を多めに取っている。実際使った水については、小口のところに負担割合にウエイトをつけて、大口のところの料金を下げるというプロセスで、トータルは少量使用者のほう負担上昇が大きい。前回の料金改定の時に10回に分けて大口と小口の逡増度をフラットにすることをしているが、それを推し進めるという理解でいいか。基本料金の13mm、20mmが安くなっているが、小さな口径の一般家庭は基本料金は配慮される代わりに従量料金のところは上がっていく。個別原価主義による料金体系に近付けるのか。

事務局

そのとおりである。

清水会長

原価配賦のところで、固定費を準備料金と水量料金に振り分けているが、この割合が今後変わる可能性はあるか。

事務局

水道料金算定要領や水道料金改定の手引きに基づいて算定しているが、今後の改定時に大きな変化があれば、見直しを検討する。

清水会長

固定費が大きくなっているんで、これを基本料金と従量料金にどう割り振るかというのは非常に難しく、使用者の構成で変わってくるので、社会情勢などを見ながら、算定要領はあくまで1つの案なので、料金改定は今後も続いていくので、調整を検討してはどうか。

山崎副会長

パブリックコメントで1名から意見があったとのこと。先日埼玉県のある市に行ったが、そこは40%の値上げで、反響がどうだったか聞いたら、テレビで老朽化が進んでいるとの報道もあり、全然なかったと言っていた。丁寧に説明しているのもあると思うが、しっかり試算に基づいてやっている姿勢はいいと思う。

清水会長

条例改正案が議会を通れば、周知という形になると思うが、説明会はするのか。広報誌で丁寧にアピールするのか。

事務局

検針時に個別にチラシを配布する。

清水会長	わかりやすく周知することが重要だと思うので、丁寧に進めてもらいたい。
委員	一気に上げるのではなく、5年サイクルなので、いいと思う。
清水会長	どれだけ資金を持っておくのか、ある程度は企業債にも頼っていい。借金の比率を見ながら、どのくらい値上げをするか考えないといけない。
委員	人件費の上昇や人材不足で修理ができなくなる恐れもある。
清水会長	公共工事で入札不調になる、人手不足や工事の採算が合わないで見送られるケースが出ている。そういった意味で、今後コストが低くなることは難しい。 ある市で令和5年度に値上げをして、そこから一気に物価上昇したので、管路の更新割合を落としたという事例があった。年0.8%の管路更新で計画を立てていたが、それ以上に物価が上がったので、年0.7%の更新に遅らせざるを得ない状況になっているとの話を聞いた。やはり物価などの上昇率は重視しておかないといけない。 それでは、審議会なので採決の形を取りたい。1号案を妥当であると認め、答申案のとおり答申していいか。
委員	一同同意
清水会長	答申案まま答申する。これで諮問に関する議事は終了した。

4 閉会・事務局あいさつ

会長が閉会を宣言し、事務局があいさつを行った。